

2024年度事業報告書

1. 2024年度の経済状況及び関連産業の動向

(1) 2024年度経済

2024年度の我が国経済は、長きにわたるコストカット型経済から脱しデフレに後戻りせず、「賃上げと投資がけん引する成長型経済」に移行できるかどうかの分岐点である。

こうした中、政府は、「国民の安心・安全と持続的成長に向けた総合経済対策」を2024年6月に閣議決定した。

2024年度の我が国経済は、緩やかな回復を続け、実質GDP成長率は0.4%程度、名目成長率は2.9%程度、消費者物価指数は2.5%程度の上昇と見込まれている。

(2) LPガス産業界及び溶接容器産業の状況

① LPガスの位置づけ

エネルギー政策の将来像を示す第7次エネルギー基本計画が2025年2月に閣議決定された。エネルギー基本計画では、「化石燃料の中で温室効果ガス排出が少なく、約4割の家庭に供給され、備蓄体制も整備されており、可搬かつ貯蔵が容易な分散型エネルギーである。国内需要の8割を占める輸入先は米国、カナダ、豪州で9割超と地政学リスクが低く、エネルギー安全保障にも資するうえ、ボンベで全国のどこへも供給可能であり、災害時には、病院等の電源や避難所等の生活環境向上にも資する最後の砦としても重要なエネルギー源である。」と位置付けている。

② LPガス溶接容器等製造業の経営環境

鋼材等の原材料価格の上昇に加えて、人件費、物流費等の大幅な上昇による製品価格の値上げに起因した買い控えや20年容器の再検査実施等により2023年は1998年以降最低の生産本数となった。2024年に入っても小容量のバルクから溶接容器にシフトしている部分もあり前年比増加しているが、2022年比では減少しており、依然として厳しい経営環境にある。

2025年についても、引き続き人件費、物流費の値上げの影響もあり、厳しい経営環境が継続することが予想される。

このような厳しい経営環境にあるが、常に安全・安心を図るため、容器等の技術革新と品質の向上を図りながら、LPガスに関係する団体・企業等

と一丸となって国民生活におけるエネルギーの安定供給という使命を全うしており、引き続きその努力を継続していく必要がある。

2. 2024年の実施事業

(1) LPG 容器及びバルク貯槽の生産統計の作成・公表

会員企業各社からの報告を踏まえて、2024年1月～12月の生産状況を作成し公表した。2024年の生産状況は、以下の通り。

① LPG 容器の生産

2024年の容器総生産実績は、LPG 容器で1,426千本（前年比110.0%）となり、昨年比増加しているが、1,704千本の一昨年比83.7%であり、依然として厳しい状況にある。また、自動車用容器、その他ガス用容器を含めた総生産実績は、1,480千本（前年比108.6%）となった。

・10kg以下LPガス用容器	75千本（112.7%）
・10KG超20kg以下	600千本（116.1%）
・20KG超50kg以下	751千本（105.3%）
・50KG超500kg以下	87本（185.1%）
・自動車用容器	11千本（78.4%）
・その他ガス用容器	43千本（83.7%）

② バルク貯槽の生産

2024年のバルク貯槽生産実績は、14,228基（前年同期比104.2%）となった。内訳は以下のとおり。

・100kg以下	78基（—%）
・100KG超150kg以下	383基（76.4%）
・150KG超200kg以下	80基（76.2%）
・200KG超300kg以下	3,767基（112.0%）
・300KG超500kg以下	4,074基（108.4%）
・500KG超1トン未満	5,240基（98.7%）
・1トン以上3トン未満	606基（97.9%）

(2) 溶接容器の技術向上

- ① 技術委員会を中心に溶接容器及びバルク貯槽の品質保持・向上に関する検討を行った。今年度は、放射線透過試験方法にデジタル検出器の活用につい

て、製造メーカーとの意見交換を含め重点的に検討を行った。

- ② ISO/TC58 国内委員会に委員を派遣し、ISO 基準の見直し・策定などに協力した。
- ③ 移動容器規格委員会に委員を派遣し、検査基準の見直し等に協力した。

(3) 保安の確保と安定供給対策

① 生産物賠償責任保険の更新

容器を起因とした万一の事故による賠償責任に備え、2023 年度保険年度（2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日）の生産物賠償保険を継続付保した。

② 政府の保安対策等への協力

経済産業省産業構造審議会傘下の高圧ガス小委員会にオブザーバーとして参加し、高圧ガス保安施策の策定・推進に協力した。

③ LP ガス安全委員会への参画

LP ガス安全委員会に会員として参画し、消費者保安体制の強化及び事故防止体制の推進に協力した。

④ LP ガス容器くず化処理状況

LP ガス容器くず化処理マニフェストの発給依頼のあった認定事業所に対し同マニフェストを提供し、確実にくず化処理に貢献した。

容器処理委員会委員 25 社の 2024 年のくず化処理件数は、660,340（前年比 100.4%）となった。

⑥ バルク貯槽くず化処理状況

容器処理委員会委員 25 社の 2024 年のバルク貯槽くず化処理件数は、8,632 基（前年比 92.7%）となった。

(4) その他の事業

① 関係官庁、関係機関等からの情報提供

経済産業省等の行政機関及び高圧ガス保安協会をはじめとする関係機関・団体からの依頼・情報提供を受け、会員への周知、各種資料の配布を行う等必要な情報提供に務めた。

② 関係団体等との連絡、情報の交換

LP ガス関係団体事務局連絡会に参加し、関係業界相互間の情報交換を行った。

(5) その他

① 物流 2024 年問題

物流の２０２４年問題に関する政府の政策の動向について、必要に応じて理事会等に情報提供するとともに、適切な容器配送を継続するため一般社団法人全国ＬＰガス協会との意見交換を実施した。

③ 特定技能制度

経済産業省への要望により２０２４年９月の告示改正で技能検定第１号対象業種に「溶接容器・バルク貯槽製造業」が追加された。また、今後検討される技能実習制度の廃止により新たに創設される育成就労制度創設を当工業会会員企業が引き続き活用できるよう経済産業省に要望した。

(６) 会議の開催状況

① 通常総会

２０２４年５月１４日（月）に第４８回通常総会を開催し、２０２３年度事業報告書案及び収支決算書案等を審議し、議決した。

② 理事会

２０２４年度は６回の理事会を開催し、総会への附議が必要な事業報告書案、収支決算書案について審議し、議決した。また、各委員会の開催報告に基づく検討を踏まえ、必要に応じ業務執行を決定した。

③ 監査

２０２４年４月２２日（火）に２０２４年度の収支決算について監査を実施し、監査証明書の提出があった。

(７) 委員会活動

① 運営委員会

２０２４年３月１１日（月）に開催し、２０２５年度の事業計画書案及び収支予算書案について検討を行い、理事会に付議する案を作成した。

② 技術委員会

２０２４年度は６回の技術委員会を開催し、溶接容器・バルク貯槽の品質保持を中心とした検討を行うとともに、放射線透過試験方法にデジタル検出器の活用について製造メーカーとの意見交換を含めて重点的に検討を行った。また、外部委員会出席委員からの報告を基にした意見交換等を行った。

また、地方開催としてバルク貯槽の空気置換方法の見学を目的として、札幌市のエルピー産業を訪問した。

③ 容器処理委員会

２０２４年度の容器処理委員会は、５月１６日（水）に第９９回容器処

理委員会を開催し、容器処理の状況、容器処理に関する政策の動向等について意見交換を行った。また、不適切な処理が行われている状況があることから処理工場認定制度の広報が重要との指摘があり、広報活動専門委員会を設置した。毎年実施している関連施設視察を含めた秋の研修会は、10月に山梨県南アルプス市の宮入バブル甲府工場を訪問し、バブルの製造過程等を視察した。

(8) 庶務的事項

① 役員の異動

2024年度は役員の異動はなかった。

② 委員長の異動 容器処理委員会委員長に菊地鉦業菊池敬二社長を選任した。

③ 会員の状況

正会員 6社

賛助会員 29社

バルク関係 1社

バルブ関係 3社

容器処理関係 25社

④ 表彰関係 なし

以上